

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	19 / 1973 / 23-32
タイトル	青森市滝沢のチョウ(その種類)
著者名	三橋渡

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森市滝沢のチョウ〔その種類〕

2年 三 橋 渡

はじめに

滝沢のチョウ類は、青高生物部などによって、青森市内では古くから、その種類などが研究され、大たいのチョウ相は、判明している。しかし、チョウ相などのしるされた文献が手にはいりにくいことや、また今年から生物部全体の方向として、滝沢生物調査が始まり、その解明に向かっているのでその一端としても、記録をまとめてみた。

しかし、調査不足のため、普通種の中で記録されなかったのがあるなど不備な点を残したまま、執筆するという結果になった事をつけ加えておく。

滝沢の生物相（概略）

一般の生物相について豊富な知識を持ちあわせていないので、主観的、さらに偏狭になると思われるが、地史的考察をぬきにした生物相をのべてみる。植物では、基本をあげておく。

全般的に、ミズナラ、カエデ類、トチノキなどが目立つ。また、ホオノキ、クルミ類、ブナ、ヤナギ類、センノキ、シナノキ、マンサク類、キブシ、ヒバなども目につく。ヒバは青森市内では、眺望山地区など中山山脈に多いほかは、ここを除いてはほとんど目につかない。

動物では、カモンカが時々、姿をみせるのが、特筆されよう。鳥類は豊富のようで、たとえば今年のキャンプでは、アカシヨウビンの鳴き声も聞いている。チョウ以外の昆虫では、ムカシトンボ、ホソアカガネオサムシ、オオチャイロハナムグリなどが目立つところだろう。

昆虫相については、本号に、木村帝一氏が記しているので参考にしてほしい。

調査のようす

1968年（昭43）から、1973年（昭48）まで、25回ほどチョウを採集に当地を訪れている。場所は、下折紙沢が最も多く、全く足をふみ入っていない地域もあるが、チョウ相は、下折紙沢などとまず違わないと思われる。また、入山した回数は月によってかたよっていたり、多少問題はあるが、先輩の記録もあることだし、記録をまとめることのできる段階だと思われる。

なお、滝沢の範囲であるが、その限界は、明確には考えておらず、だいたい大清水沢奥地・赤沢・上折紙沢・下折紙沢それぞれの奥地を半円形で結ぶ付近が滝沢の領域の境界と考えればよいと思う。

チョウ目録

人名のない記録は、筆者採集あるいは目撃した記録である。次に列記する種は、土着種とみられるものである。なお、採集記録は、一部、文献より引用した。

I セセリヨウ科

ミヤマセセリ

1959—5—29 288299 武田昭示

筆者は、滝沢において、出くわしていない。

ダイミョウセセリ

キバネセセリ 1972-7-2 1♂
1972-7-29 1♀
1971-8-10 1♀

メスは花上に見うけられる。上記8月10日のメスは花で、また7月29日メスも、花（つぼみ？）で見かけた。

ギンイチモンジセセリ

1971-6-13 1目撃

全国的に、分布は割合、局地的である。

コチャバネセセリ

1971-7-18 1

オオチャバネセセリ

1971-7-18 1

ヒメキマダラセセリ

1971-7-18 1♂
1972-7-27 1♂

青森県では、コキマダラセセリが広く分布するのに対して、本種は、やや山地性で分布も限られるようである。

キマダラセセリ

1973-7-14 1

滝沢小学校裏で得た。寒冷地の、本県では多くない。

Ⅱ アゲハチョウ科

ウスバシロチョウ

1970-6-7 4
1971-6-13 5
1969-6-15 2♂♂1♀
1973-6-23 2

溪谷沿いに広く分布していると思われる。青森市周辺では、5月下旬～6月中旬ころ、主に荒地に見られる。下北半島奥薬研付近や、三戸郡迷岱では、7月上旬まで見られる。

滝沢ではムラサキケマンが食草として知られている。

アゲハチョウ

1972-7-27 1♂

上の個体は、下折紙沢の奥の方で採った。

一般に山地にはみかけられない。

キアゲハ

1973-8-4 1 青木 司

オナガアゲハ

1961-5-28 1♂ 山崎 庸一

1953-8-1 2♀♀ 青高生物クラブ

当地において、非常に少ないものである。下折紙沢に見られるようである。市内では、三内、横内付近で記録があるようである。県内をみまわしても少なく、産地として、西郡十二湖・深浦・南郡大鱈・碓ヶ関・黒石市・八戸市・三戸郡名久井岳・階上村・田子町（など？）があげられる。

カラスアゲハ

1973-5-27 1♂

1971-6-13 1♂

1970-8-23 1♂

ミヤマカラスアゲハ

1972-7-27 1♂

1973-8-2 1♂

1973-8-4 1♂

滝沢溪谷各地に見られる。年2回発生し、5月下旬～6月下旬、7月下旬～9月上旬見られよう。（青森県で。）前種と比較すると、夏型の最盛期が、遅いように思われる。

1973年の夏期のキャンプで昆虫班員の得た、2種では、本種が、新鮮味が強かった。北海道でも、同じことを経験している。

Ⅲ シロチョウ科

スジボソヤマキチョウ

1973-3-31 1♂

1973-4-15 1♂1♀

1968-9-1 1♂1♀

ツマキチョウ

1969-6-15 1♀

モンキチョウ

ヒメシロチョウ

1973-6-23 1♀

エゾスジグロシロチョウ

1973-8- 1♂

スジグロシロチョウ

本種はまだ滝沢では確認していない。怠慢がわざわいして未確認なのである。

つまり、当地で、可憐な飛翔を見せる白っぽい中型のチョウの数の中に、本種が、全く混っていないと考えることは不可能なことなのである。したがって、現在は、未確認であるが、今後見いだす可能性は100%と思われるから、確認種と全く同等に扱って、目録に含めた。

モンシロチョウ

IV シジミチョウ科

森林性シジミの種類数に目ぐまれている。

特に、ゼフィルスと俗称される一群は、種類・個体数、共に豊富で、青森県内でも屈指の産地となっている。当地に産するこの科の種で注目されるのは、ウラキンシジミ・フジミドリ・カラスシジミ・スギタニルリシジミなどであろう。

オナガシジミ

1972-7-27 3

発生は、ゼフィルスのなかでは遅く、本県では、7月下旬からである。

ミズイロオナガシジミ 1971-7-18 1

1972-7-29 1

ウスイロオナガシジミ

1971-7-18 1

滝沢では、少ないもののようなのである。市内では、八甲田山各地に多い。

アカシジミ 1972-7-2 4

1971-7-18 2

ゼフィルス中、発生が早いものである。近似種のウラナミアカシジミは、まだ知られていないが、県内では、本種より分布が限られるようだ。

なお、花に来ていたのを、観察している。(1972年7月2日)

ムモンアカシジミ

文献1には、滝沢が産地としてあげられている。

ウラキンシジミ 1972-7-27 3

1971-8-10 1♀

下折紙沢で、得ている。飛翔は、弱い。7月27日に得た3 exs.のうち、表面の、前後翅に赤紋のあらわれているのがあった。(abaki?)

ウラミスジシジミ 1972-7-27 1

1971-8-10 1

全国的には、ゼフィルス中珍種とされるが、津軽地方では産地が多く、たとえば青森市の低山地には連続的に分布している。また、本県のもはシグナータ型からケルシボーラ型まで、中間的なものも含めて変異性に富んでいる。

津軽の全国にはこれるチョウではないだろうか。

ウラクロシジミ 1972-7-2 2♂♂3♀♀

1971-7-18 1♀

1972-7-27 1♀

花に來ているのもあった。(1972,7,2)青森市内では、浅虫・横内合子沢などに、数が豊富である。

夕刻、雄が、表面を銀白ピカッピカッと光らせながら活動するさまは、美しい。

ミドリシジミ	1972-7-29	2♂♂
	1972-9-23	1♀

メスアカミドリシジミ

	1972-7-2	9♂♂1♀
	1971-7-18	7♂♂
	1972-7-27	2♀♀

当地においては、個体数が豊富である。日中、オスの活発な、活動が見られる。一方メスは不活発で、目につきにくい。

アイノミドリシジミ	1972-7-2	1♂
	1971-7-18	2♂♂

当地では、個体数が少ないようである。オスは早朝活動するので、このことが一因しているかも知れない。またオスの輝きはミドリシジミ類中、特に強いものの一つである。

オオミドリシジミ	1972-7-27	1♀
----------	-----------	----

全国的な普通種ではあるが、個体数は少ないことが普通である。オオミドリやジョウザンミドリ、ハヤシミドリなどの属する、フアボニウス属の種は、同定がむずかしい一群で、時に、判別し難い個体がある。

エゾミドリシジミ	1972-7-2	4♂♂
	1971-7-18	2♂♂
	1972-7-27	1♀
	1970-8-23	1♀

ジョウザンミドリシジミ

	1972-7-2	7♂♂1♀
	1971-7-18	3♂♂1♀
	1972-7-27	1♀
	1971-8-10	1♀

個体数の豊富な種である。市内では、各地に多いが、西部低山地(浪館～高田付近)には見られない。その原因は何であろうか。

フジミドリシジミ	1972-7-2	1♂1♀
----------	----------	------

当地には、食樹のブナがあまり見られない関係か、少ない。ここは、フジミドリの産地としては標高が低い。本県はブナの多産地であるので、本種は、八甲田山を始め、各地に見られる。

カラスシジミ 1972-7-2 1 ♀
 1972-7-27 1

滝沢の各地に生息するが、個体数は少ない。また県内では、分布が局限される。

ミヤマカラスシジミ

文献2によると、滝沢が産地としてあがっている。一般に前種より、低地に見られる。

コツバメ 1971-5-9 1 ♂
 1971-6-13 1 ♀

春のおとずれとともに、野山に出現する、可憐なチョウである。

トラフシジミ 1972-7-2 1 ♂ (春型)

ベニシジミ

1970-5-30 3

ルリシジミ

1971-7-18 1 ♀
 1972-7-29 1 ♂

スギタニルリシジミ

1972-4-29 1 ♂♂ 2 ♀♀

滝沢のチョウ相で特に、注目されるものである。また、個体数も豊富である。今まで、下折紙沢・樺ハギ沢人口付近などで見ている。コツバメとともに、4月下旬ころから発生する、「春のチョウ」として著名である。成虫は、地面付近を飛ぶことも多い。

ツバメシジミ 1970-6-7 1
 1971-7-31 1 ♀

V タテハチョウ科

コムラサキ 1971-7-18 1 ♂
 1972-7-27 1 ♂
 1971-8-10 1 ♀

滝沢各地に見られ、採集家の目を集めている。

オオミスジ 1973-7-14 1 目撃

滝沢小学校裏で目撃した。大型で、飛び方は他のミスジと同じく独特でスマートである。

コムスジ 1971-6-13 1

ミスジチョウ

1972-7-2 1 ♂ 1972-7-27 1
 1971-7-18 2

滝沢のチョウ相を特徴づけるもので、全国的に少ないものである。

イチモンジチョウ 1971-7-18 1

アサマイチモンシ 1971-7-18 1

全国的に、前種より分布が限られる。

サカハチチョウ 1971-6-13 2

1969-6-15 2

1972-7-2 目撃(春型)

1972-7-29 2

1971-8-10 7 三橋, 今

1970-8-23 1

1968-9- 2

キタテハ

1973-8-2 1

シータテハ

1973-4-15 1

1971-5-9 1

1972-7-2 1(秋型)

1971-7-18 2

1971-8-10 1

越冬後の個体は、一部、初夏まで生き残るのではないか。(7月2日の記録)キベリタテハでは、越冬後の個体が、湖畔などで、8月まで生存しつづけ、新鮮な子孫と往々にして同時に見られることもあり、生存期間は、一年間に至るものもあるらしいという。

(文献1)

アカタテハ 1972-9-23 2

ヒオドシチョウ

2・3 目撃している。一般に、越冬後の個体は、目につきやすいが、羽化後の新鮮体は目立たない。

ルリタテハ 1972-4-29 1

1971-7-31 1 ♂

1968-8- 1

クジャクチョウ

1973-4-15 1

1971-5-9 1

1971-7-18 2

1972-7-27 2

ウラギンヒョウモン

文献3にのっている。全国的な普通種である。

ミドリヒョウモン 1971-7-18 1♂
1971-7-31 1♂

メスグロヒョウモン

1972-7-2 1♀
1971-8-10 1♂1♀

広く分布するが、個体数は多くないものである。

クモガタヒョウモン 1972-7-2 1♂1♀
1971-7-18 1♀
1972-9-23 1♂

本県では、山地に多く、低地には、ほとんど見られないようである。9月23日の1♂は、占有行動をしていたらしい。

IV ジャノメチョウ科

ヒメウラナミジャノメ 1971-7-18 1

ヒメジャノメ

ジャノメチョウ 草地に見られる。

クロヒカゲ 1971-7-18 1
1972-2-23 1

ヤマキマダラヒカゲ

1973-8-5 1 石沢尚史

石沢氏が、記録を提供した。

ヒメキマダラヒカゲ 1972-7-27 1♀
1972-7-29 1♂

青森市では、八甲田山に見られ、山地性の種である。分布の低限は、八甲田北端の滝沢や、西の下湯あたりのようである。盛夏には、酸ヶ湯に豊産するが、滝沢では少ない。

付記：浅虫湯ノ島にも、生息している。湯ノ島は小島ながら、山地性チョウや、オオムラサキの産地としてきわめて注目される。

迷子ョウと思われる種

キチョウ 1962-9-23 1秋型 太田裕一

キベリタテハ

1972-4-29 1
1972-9-23 1♀

筆者の記録は二例だけであるが、他に記録はたくさんあるであろう。本種の越冬は、発生地より低標高地で行なわれることが多いようで、春に、時々、かなりの低地で得られることがある。たとえば文献4・5には、そのようなことが記されている。上記の記録及び他の記録もそのようなものだろう。夏期に発見されていない事、および本種の食樹

と思われる、ダケカンバを私たちが歩く範囲では見ていないこと（ヤナギ類はあるが）は、迷チヨウのたぐいとして扱う大きな根拠である。なお、上記の1972年9月23日の1♀は、上滝沢の停留所付近（部落のはずれ）で得た。

エルタテハ 1971-7-18 目撃（下折紙沢）

1962-10-5 1♂ 中井保夫

中井氏の採集記録のほかに筆者も、確実に目撃し、捕えそこねている。その時のようすは、雑記に次のように印されている。「最初、溪流沿いの高さ1mくらいの草のブツシユに止まっていて、ほぼ、エルタテハと察し、ネットをかぶったが、逃がした。それからほんの1~2分後に、今度は地面（付近）に止まったチヨウを目撃。今度は完全にエルタテハと断定。表面の白色が目立った。そしてまた逃した。おそらく同一個体と思われる。」と、というような内容の、メモである。一回目のものか、二回目のものかはわすれたが、飛翔は速く、また二回の目撃個体は、ボロくはなかったと思う。（1973）つまり、新鮮体だとみるのである。前種キペリタテハのところでも説明したように、成虫で冬をこすタテハは、しばしば生息地より下部で見つかることがあるが、まず、夏季ではない。ところがこの目撃記録は夏で、しかも、エルタテハの発生期よりは、多少早いと思われるので、案外、下紙紙沢の両側の山から発生したと考えるのではないか。しかし、夏の記録も、この一例のみで、おまけに山もそれほど高くはなく、本種の主要な生息地、八甲田中心部からはずれているなどから、一応迷チヨウのたぐいにしておく。県内では、八甲田山酸ヶ湯・田代平高原・石倉岳・南部戸和田山・鶴巻部山・弘前市座頭石・三戸郡新郷村平子沢（など？）で、記録がある。また産地での、個体数も少ない。酸ヶ湯は、県内における最も、確実な産地と思われる。

今後記録されそうな種

主に調査不足のため、普通種ではあるが記録されていない種や、近接地域とのチヨウ相の比較その他から今後発見されそうな種をあげておく。

ミヤマチヤバネセセリ

青森市内では、5月ころと8月ころの2回発生し、戸山・浪館・戸門・高田などで採れている。個体数は少ないものではあるが、滝沢をはじめ広く分布しているだろう。

コママダラセセリ

市内では、高地をのぞいて普通なものである。みのがしていると思われる。

イチモンジセセリ

本県では、夏から秋にかけて見られるものである。田園地帯にいると思われる。

ゴイシジミ ウラギンスジヒヨウモン オオウラギンスジヒヨウモン

ヒメアカタテハ サトキマダラヒカゲ

オオヒカゲ

割と分布が限られているが、滝沢には分布しているような感がある。

以上、土着種で、67種、その他3種記録された。

参考文献

- 阿部貞・室谷洋司；青森県の蝶類（1962） 文献 1
室谷洋司；青森の蝶（1957） 文献 2
 ；昭和41年度生物部員活動報告（P 15）やどりぎ Vol. III No. I 文献 3
千葉瑞穂・村上直樹・佐藤守；戸米の蝶相（1966）
藤岡知夫；日本の蝶（1972）〔ニューサイエンス社〕 文献 4
亀井文蔵・小野泰正；宮城県の蝶（1971） 文献 5
太田裕一；青森市滝沢における新記録（P 22） やぶなべ 8（1962）